

と活動されている様子についてお話していただきました。本大会のサブテーマでもある「チーム学校づくり」という点で、大きなヒントをいただくことができました。

次に行われた大会の華であるシンポジウムは、コイディネーターの愛媛大学大学院教授の露口健司氏が循環モデルとして教職員・子供・地域だけでなく、副校長・教頭のウエルビーイングのために、「働きやすさ」と「働きたい」という視点を軽快に分かりやすく、ご自身の提案を交えながら、他のシンポジストのご意見をまとめていただきました。地元高知のシンポジストである高知市教育委員の谷智子氏は、ご自身が学校長として取り組んだ中学校の地域での活動やその要として動かれた教頭の役割について、「協働」「つながり」「ハッピーでいること」等、具体的なお話をいただきました。また、千クリエイティブカンパニー代表の田村千賀氏には、よさこい祭り実施の立役者として、恩師との出会いで学んだことと鳴子踊りの振り付けやミュージカル団での指導を通して、学校教育でも



参考になる子供たちとどう関わっていったか等、熱意あふれるお話をいただきました。そして、国立教育政策研究所初等中等教育研究部長の藤原文雄氏からは、教員自身のウエルビーイングは子どものウエルビーイングに貢献する、そのためにも仕事そのものにやりがいをもてるように、教職員の関係性や働きやすさ、学び続ける教職員を応援する等の組織としての雰囲気づくりの大切さについて学ぶことができました。

■ 大会2日目 8月1日（木）分科会

各会場に分かれ、10の分科会が開かれました。1月の提言者研修会を経て、提言者の皆様から、さらにグリードアップされたご提言がありました。2つの提言を午前・午後と分けて行い、グループ協議の後、いくつかのグループ発表をしていただきました。その際は、オンライングループからも複数ご発表いただくことができました。そして、ご助言の先生方から、鋭くも温かいご助言をいただき、提言者の方だけでなく、全員の学びとなり、それぞれの勤務校でのご実践に活かす

ことができることと思います。

また、中身だけでなく、包紙まで高知色を盛り込んだこだわりのお弁当も大好評でした。各会場の運営も滞りなく行え、心配していたオンライン接続も大きなトラブルもなく、閉会行事を迎えました。次回大会の茨城大会の紹介VTRが流れた時、3年間の思いが実った安堵感と少しの寂寥を感じ、込み上げてくるものがありました。

■ 次回大会以降に期待すること

ハイブリット大会として、オンライン参加の皆様が参集の方といたかにして同じ熱量を持って参加して良かった大会となるのが大きな鍵です。研究内容は全公教研究部と開催県の実行委員会が細かく打合せ、全国統一研究主題を受けたサブテーマにずれなく一貫性をもつことができるのか、見通しと振り返りを繰り返しながら実施しなければなりません。できれば今大会と同じように、開催県が各ブロックでの研究部長として全公教の役員であると円滑に進みやすいと思います。また配信等の各業者との連携と余裕ある予算計上が必要だと思えます。

最後になりますが、全公教の役員・事務局・顧問会の皆様、準備を含め運営面のご支援誠にありがとうございました。昨年度の石川大会実行委員会の皆様、引継ぎ会からたくさんご教授いただきました。高知大会の成功は、石川県教頭会・事務局の皆様なしでは達成できなかったと思っております。そして、来年度の茨城大会実行委員会の皆様、第13期のまとめとして、素晴らしい大会になることを祈念いたしております。本研究大会がますます発展していくことを願っております。